

AI × 人で進める業務改善のカタチ ～小さな実践を積み重ね、働きやすい学校づくりへ～

千葉支部：流山市立市野谷小学校

主事 金子 幹親

（事務職員経験 5年目）

【背景と目標】

近年、事務職員の学校運営への参画が求められるようになり、私自身も初任の頃から、できる範囲で学校運営に積極的に関わってきました。事務職員の専門性という「財務」がよく挙げられますが、私が所属する流山市では市会計に関する財務事務を市費負担事務職員が担当しており、県費負担事務職員が直接関わる機会は多くありません。そうした中で、自分にできる形で学校運営に貢献できないかと考えた結果、自身の強みである「ICT」を生かした業務改善に取り組んでみようと考えました。

事務職員・教員ともに、業務の煩雑化や多様化が進む中で、それぞれが工夫をしながら対応しているものの、時間的な負担や作業負担が大きな課題であると感じていました。そこで本実践では、自分自身や先生方の負担を少しでも軽減したいという思いから、旅行命令簿、保護者面談の日程調整、学校ホームページに目を向け、課題解決に取り組むこととしました。また、その取組の中で、近年話題となっている生成 AI を活用し、業務の効率化と負担軽減を図ることを目標として実践を進めていきました。

【協働・取組】

いずれの取組も他校の先輩事務職員や職場の先生方の意見を取り入れながら、私自身が中心となっており、より効率的で負担が軽減される形を模索しながら進めました。

まず、旅行命令簿については、これまで命令簿様式への入力や印刷までに多くの手作業が必要であり、事務職員にとって大きな負担となっていました。そこで、生成 AI を活用して Excel のマクロを作成し、出張一覧のデータをもとに、命令簿様式へ自動で反映、印刷できる仕組みを構築しました。これにより、入力や転記、印刷までの作業効率が上がり、事務職員の



図1 ChatGPTと会話し
VBAコードを教えてください

業務時間の短縮につなげました。これまで旅行命令簿作成に要していた時間を削減できたことで、学校運営へ参画するための時間を確保することが可能となりました。

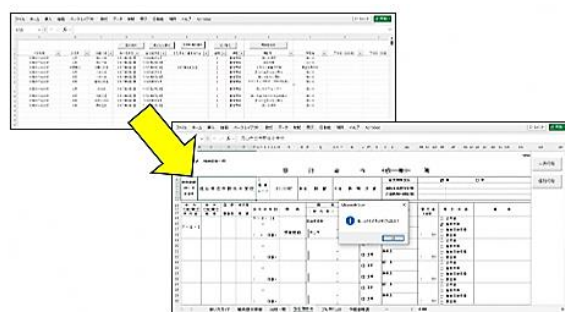


図2 旅行命令簿（出張一覧から命令簿様式へ反映・印刷）

次に、保護者面談計画については、紙ベースで日程の集約をし、教員の手作業で調整を行っていた業務を回答フォームの活用と Excel マクロを使い、自動で面談枠へ割り当てができる仕組みを整えました。これまでは、保護者から集約した内容を教員が手作業で行っていたため、兄弟間の調整や希望の重複など再調整に多くの時間を要していました。そこで、保護者に Microsoft Forms で日程の回答をもらう。次に集約した面談希望のデータをもとに生成 AI を活用した Excel マクロを作成し、自動で面談枠へ割り



図3 保護者回答用フォーム

当てができる仕組みを整えました。これによりボタン一つで日程調整が可能となり、これまで Word の差込み印刷で作成していた保護者宛ての通知文についても、前述した旅行命令簿のシステムを応用し、Excel から一括で印刷できるようにしました。この結果、面談日程の調整から通知文作成までにかかる時間が大きく短縮され、教員の負担軽減にもつながることができました。

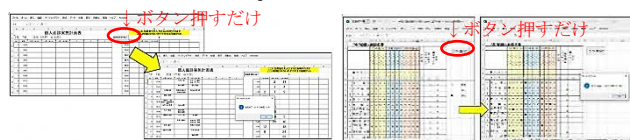


図4 保護者面談日程調整システム
（Forms の回答を所定の表にコピーし、ボタンを押すことで自動的に保護者の希望通りに割り振りしてくれる）



図5 保護者面談日程調整システム
(同ファイルの別シートにある通知文に反映させ、印刷できる)

学校ホームページについては、掲載文作成の負担が教員に偏りがちな点が課題であると感じていました。そこで、事務職員が写真の整理や掲載作業を担当し、その掲載記事やお知らせ文の作成に生成AIを活用したことで、情報発信の迅速化と教員の業務負担の軽減を図ることができました。

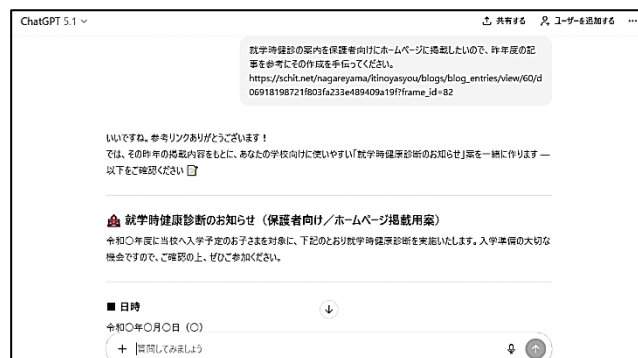


図6 ChatGPTと会話してホームページの文章を考えている様子

【成果と課題】

旅行命令簿、保護者面談計画、学校ホームページの3つの業務において、事務職員・教員双方の業務負担の軽減と業務の効率化を図ることができました。いずれの取組も、「1から全てを見直す」のではなく「今ある業務にICTと生成AIを少しずつ取り入れる」という形で進めたことにより、無理のない形で定着させることができたと感じています。

特に、保護者面談計画について、実際に活用した先生方から、「これまで手作業で行っていたため多くの時間を要していたが、調整や通知作成にかかる時間が大幅に短縮された」という声のほか、「データ管理になったことで書類の紛失の心配がなくなり、不祥事防止の観点からも良いと思う」等の声も聞かれ、業務の効率化を図られたことに加えて、個

人情報の安全性についても高い評価を得ることができました。また、本実践の内容は、市内事務職員会の研修で実施されている「業務改善アイデアコンテスト」にもエントリーし、発表の機会を得ることができました。発表を聞いた方々からは、「より良いものを求めて改善をアップデートし続けようとする姿勢が、市全体のためになっている。」「多くの教員の労働時間短縮につながる業務改善の手本のような実践である。」「先生方の業務改善に直結する内容に介入しようとする視野の広さと行動力に感動した。」「即時に学校の様子が伝わることは保護者にとってもありがたい。」など、前向きな感想が多くありました。これらの声から、本実践が校内だけでなく、市内の事務職員や教員にも良い刺激を与え、業務改善やICT活用への意識の広がりにつながった点も、大きな成果の一つであると感じました。

一方で、課題もいくつか明らかになりました。まず、Excelマクロや生成AIの活用は、作成や運用を担う事務職員に一定の知識やスキルが求められるため、取組が属人化しやすいという点です。今後は、操作マニュアルの整備や、異動を見据えた引き継ぎ方法の工夫など、誰でも活用できる仕組みづくりが必要であると感じました。

また、生成AIについては、文章の正確性や表現の適切さを最終的に人が必ず確認する必要があり、使い方を誤ると業務に支障を来す恐れもあります。そのため、あくまで「補助的なツール」として校内での活用ルールに明確に定め、職員間で共通理解を深めていく必要があると考えています。

【教訓】

今回の実践を通して、日々の業務に追われる中で、微力ながらも先生方の業務負担軽減に貢献することができたと感じています。また、市内事務職員会の研修で発表の機会を得たことで、同じ事務職員に少しでも刺激や気づきを与えることができたのであれば、これ以上にうれしいことはありません。

生成AIやICTを補助的なツールとして正しく向き合い、活用することで、事務職員の専門性を「財務」以外の面からも発揮できる可能性があることを少しでも伝えることができたと思います。本実践で得られた経験を今後も生かしながら、学校全体の働きやすさにつながる業務改善に、継続して取り組んでいきたいです。



図7 市野谷小学校ホームページ